横浜市感染症発生動向調査報告 11月

≪今月のトピックス≫

- 例年より早い時期に感染性胃腸炎の報告が増加しています。
- インフルエンザの報告数が増加しています。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

全数把握の対象

【11月期に報告された全数把握疾患】

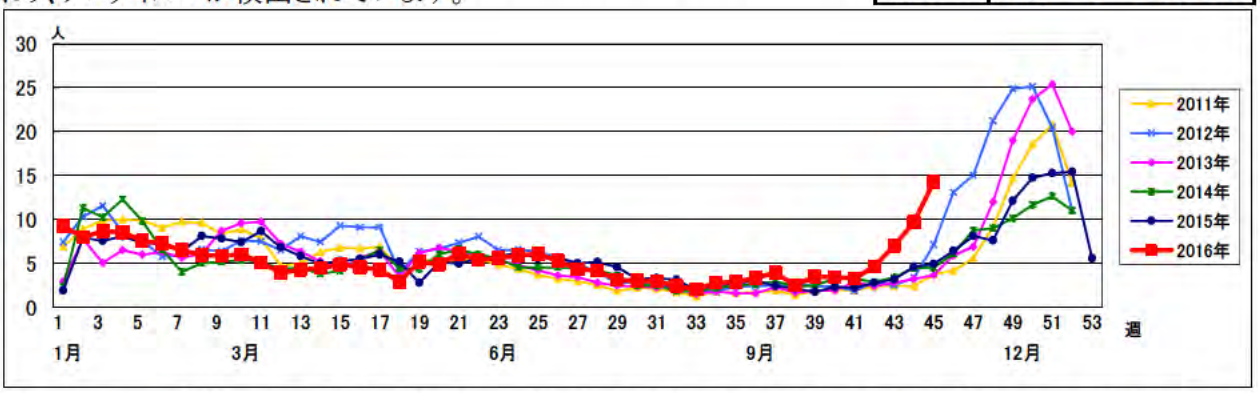
腸管出血性大腸菌感染症	12件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件
デング熱	1件	後天性免疫不全症候群（HIV感染症含む）	4件
マラリア	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	11件
レジオネラ症	5件	水痘（入院例に限る）	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	14件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1件
急性脳炎	2件		

1 **腸管出血性大腸菌感染症：**O157の報告が11件（うち3件は無症状病原体保有者）、O111が1件でした。O157の9件（うち3件は無症状病原体保有者）は共通の食品によるものでした。
2 **デング熱：**1件の報告があり、インドネシアでの感染が推定されています。
3 **マラリア：**1件の報告があり、ガーナまたはセネガルでの感染が推定されています。
4 **レジオネラ症：**5件の肺炎型の報告がありました。
5 **アメーバ赤痢：**4件の報告があり、うち1件は国内での同性間の性的接触、1件は経口感染（地域不明）が推定され、2件は感染経路等不明でした。
6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：**6件の報告があり、感染経路等不明でした。
7 **急性脳炎：**2件の幼児の報告があり、病原体は不明でした。
8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**：6件が報告され、うち4件がA群、1件がB群、1件がG群でした。
9 **後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）：**同性間の性的接触によるAIDSが1件、無症状病原体保有者の報告が2件、感染経路不明の無症状病原体保有者の報告が1件ありました。
10 **侵襲性肺炎球菌感染症：**11件の報告があり、うち0歳児および2歳児についてはワクチン接種歴が確認されましたが、9件（40～90歳代）ではいずれもワクチン接種歴は確認できませんでした。
11 **水痘（入院例に限る）：**臨床診断例が1件報告され、ワクチン接種歴は確認できませんでした。
12 **梅毒：**14件の報告（無症状病原体保有者5件、早期顕症梅毒Ⅰ期3件、早期顕症梅毒Ⅱ期6件）がありました。いずれも国内での感染で、男性7件、女性7件でした。感染経路は、異性間性的接触が10件、同性間性的接触が3件、詳細不明の性的接触が1件でした。
13 **バンコマイシン耐性腸球菌感染症：**1件の報告があり、感染経路等不明です。

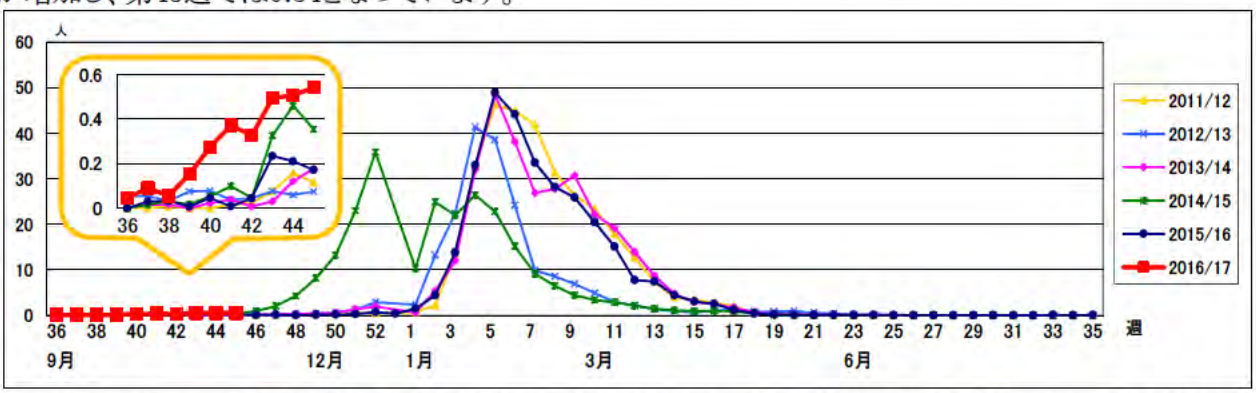
定点把握の対象

平成28年　週－月日対応表	
第42週	10月17日～10月23日
第43週	10月24日～10月30日
第44週	10月31日～11月　6日
第45週	11月　7日～11月13日

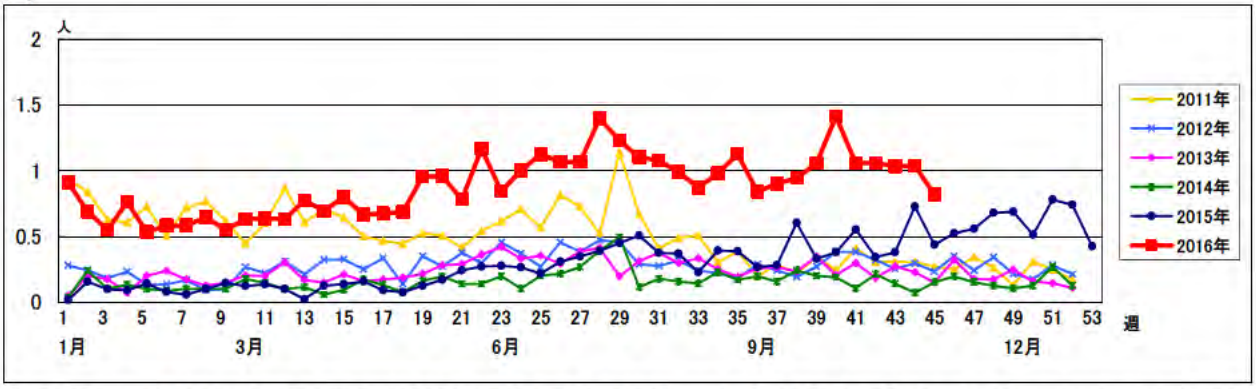
1　**感染性胃腸炎**：第45週までに定点あたり14.19と、例年に比べて早く増加しています。保育園、幼稚園等における集団発生も多く報告されており、ノロウイルスが検出されています。



2　**インフルエンザ**：第39週で定点あたり0.15、第40週で0.27、第41週で0.37と、例年に比べて早期に報告が増加し、第45週では0.54となっています。



3　**流行性耳下腺炎**：第45週で定点あたり0.82と、例年に比べて報告が多い状態が依然として続いています。



4　**性感染症**：10月は、性器クラミジア感染症は男性が33件、女性が18件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が17件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が5件でした。淋菌感染症は男性が15件、女性が0件でした。

5　**基幹定点週報**：マイコプラズマ肺炎は第42週1.75、第43週1.50、第44週2.00、第45週1.50と報告されています。インフルエンザによる入院は第42週0.25、第43週0.00、第44週0.00、第45週0.50と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎、感染性胃腸炎（ロタウイルスによるもの）の報告はありませんでした。

6　**基幹定点月報**：10月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症が3件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症が2件で、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【　感染症・疫学情報課　】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

＜ウイルス検査＞

11月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点46件、内科定点13件、眼科定点1件、基幹定点22件で、定点外医療機関からは7件でした。

12月8日現在、ウイルス分離15株と各種ウイルス遺伝子29件が検出されています。

表　感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(11月)

主な臨床症状 / 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	感染性胃腸炎	手足口病	RSV感染症	低月齢発熱
インフルエンザ AH3型	1						
パラインフルエンザ 1型		1	10				
			4	1			
パラインフルエンザ 2型							
	1	1					
RS	1	1					
ヒトメタニューモ							
	1						
ライノ							
	2	2					
コクサッキー A 5型							
	1	1				1	
RS							
	1	1					
ヒトメタニューモ							
		1					
ライノ							
					2		
コクサッキー A 5型							
	1						
コクサッキー A 6型	1						
コクサッキー B 3型							
							1
コクサッキー B 5型							
				7			
合計	3	2	10	0	0	0	0
	7	6	4	8	2	1	1

上段:ウイルス分離数／下段:遺伝子検出数

【　微生物検査研究課　ウイルス担当　】

＜細菌検査＞

11月の感染性胃腸炎は、小児科定点から1件、基幹定点から8件、その他が7件で、腸管出血性大腸菌（O157:H7,VT2が5件、O111:H-,VT1&2が2件）、腸管病原性大腸菌（O26:H40,*eae*）および*Campylobacter jejuni*が1件ずつ検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から3件、基幹定点から2件、その他からが86件でした。その他のA群溶血性レンサ球菌の6株およびB群溶血性レンサ球菌は劇症型溶連菌感染症の患者から検出されました。レジオネラ属菌は*Legionella pneumophila* 1群、バンコマイシン耐性腸球菌は全て*van*A遺伝子保有の*Enterococcus faecium*でした。

表　感染症発生動向調査における細菌検査結果（11月）

感染性胃腸炎

検査年月	11月			2016年1月～11月		
定点の区別	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数	1	8	7	4	105	91
菌種名						
赤痢菌					1	2
腸管病原性大腸菌		1			1	
腸管出血性大腸菌		1	6		8	66
腸管毒素原性大腸菌					2	
腸管凝集性大腸菌					2	
チフス菌					2	
サルモネラ				3	25	2
カンピロバクター			1			2
黄色ブドウ球菌					1	
NAGビブリオ						1
不検出	1	6	0	1	63	18

その他の感染症

検査年月		11月			2016年1月～11月		
定点の区別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
件　数		3	2	86	35	48	446
菌種名							
A群溶血性レンサ球菌	T1	2			6		3
	T3				1		
	T4				2		
	T6				1		
	T12				3		1
	T B3264			6	1		10
	型別不能	1			14		2
B群溶血性レンサ球菌				1			3
G群溶血性レンサ球菌						3	6
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌						4	1
バンコマイシン耐性腸球菌				13		1	24
レジオネラ属菌			1			2	6
インフルエンザ菌							6
肺炎球菌			1	1		6	41
黄色ブドウ球菌					1		
結核菌				56			244
百日咳菌						2	
ボツリヌス菌							1
その他				9		16	58
不検出		0	0	0	6	14	40

*:定点以外医療機関等（届出疾病の検査依頼）

T（T型別）:A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【　微生物検査研究課　細菌担当　】